聖光会メディカルケアグループ 医療法人 光仁会
南部厚生病院
2026 第186号

Nanbu:NutritionCare 通信

えいよう通信⇒ Nanbu:NutritionCare通信 へ リニューアル！

この度、旧えいよう通信からNanbu:NutritionCare（南部ニュートリションケア）通信へリニューアルして皆様にお届けする事となりました。
今号より、気持ちも新たに、さらにパワーアップし、日々の取組みや感動秘話などを盛り込みつつ、栄養や食事に関するホットな話題をわかり易くお伝えしたいと考えております。
進化した Nanbu:NutritionCare通信 をどうぞよろしくお願い致します。

来年2027年【成人低栄養】が病名となります！

先日、埼玉県栄養士会の研修に出席して参りました。
冒頭から衝撃的だったのは、来年2027年に【成人低栄養】がWHOの国際疾病分類（ICD-11）の新コード「5B72」として適用予定であり、独立した正式な病名として国際的に位置付けられるということです。
これは、低栄養という状態が単なる食事や症状の問題ではなく、医学的に診断し治療すべき重要課題として合意されたことを意味しています。
これに伴い医療現場ではどの様な影響が見込まれるでしょうか？
私なりに予測してみました。(^o^)丿
例えば、特定健診に低栄養診断が必須項目になる？ その診断基準はやはり国際基準のGLIM基準では？
その様に考えた場合、当院にて毎月２回行っております、【フレイル健診】は管理栄養士が関わりGLIM診断を行っておりますので、低栄養の病態の早期発見及び治療介入がスムーズに行える環境が既に整っていると言えます。
また、令和８年診療報酬改定では、入院患者の褥瘡診療計画書の栄養管理に関する事項においてもGLIM診断の結果を明記することとなり、低栄養の診断の統一化が進んでいると言えますね。

日本栄養士会会長の中村丁次先生も数年前から『栄養不良の二重負荷』について提唱されており私たちひとりひとりの人生で栄養状態が過剰な時期と不足の時期が存在している。個々人によってベストなタイミングでギアチェンジが必要であると述べておられます。
生活習慣（食べ過ぎや運動不足）によってメタボリックシンドロームや脂質異常症、高血圧や糖尿病などのリスクが高まり、生活習慣を改めなければならない時期と、あらら、最近ちょっと痩せてきたかしら？ 以前より歩くのが遅くなったかしら？ということを放置してしまった結果、低栄養状態に陥ってしまう時期。この二つの時期が存在するという意味です。ですので、ご自身の状態をしっかりと把握し、ベストなタイミングでギアチェンジが必要なのですね。
そんな中村会長からこんな質問が…。
看護の母はフローレンス・ナイチンゲール。医学の父はヒポクラテス。じゃあ、栄養学の父は？
日本の栄養学であれば、佐伯先生かもしれないね。確かに世界で初めて栄養の専門学校を創ったもんね。
国民の健康を守るために栄養士制度を創ったのも佐伯先生だったね。
明治維新後、近代栄養学を導入した日本は、たかが１２０年前後で平均寿命を４０歳から８０歳の倍のしたのね。凄いことだよね。
でも僕は、１８世紀の『近代科学の父』と称されたアントワーヌ・ラヴォワジェだと思うんだよ。
彼は何をしたのかというと、燃焼というものは酸素との結合だと見出したの。さらには呼吸がその燃焼と同様に酸化現象であることを解明したの。これは、エネルギーが出来るTCAサイクルの解明のきっかけになっているんだよ。まさに、栄養学はサイエンス！そう、生化学なんだよ！

８月４日は えいようの日！

先日厚生労働省からは、攻めの予防医療という施策が公表されました。
栄養・食生活 がん・循環器など 歯科保健 認知症 リハビリテーション 性差 に由来する６つの重点領域を設定しているそうです。
その攻めが私達の生活にどのように介入してくるのか、今後の動向を見守りたいと思います。 当院管理栄養士 宜しくお願い致します。

編集 小林